

保険医年金の
59年度利廻り予想
9.06%
(募集は年1回、9・10月)

石川保険医新聞

発行所
石川県保険医協会
金沢市尾張町1丁目9番11号
尾張町レジデンス2F (〒920)
電話 (0762) 22-5373番
発行人 後藤田博之
印刷所 ユーアイ印刷
(会費月額 3,800円)

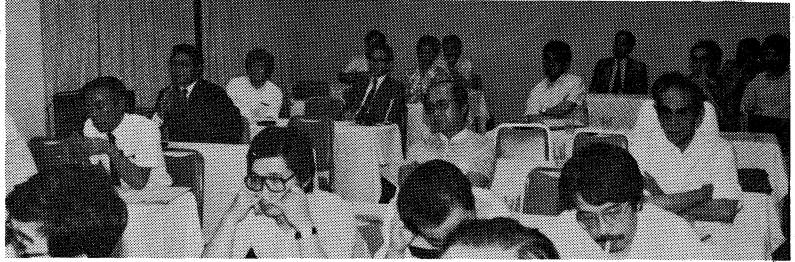
論持

石川県では二年ごと
の六月一日に新たな審
査委員が委嘱されるこ
とになっており、今年
がその年にあたるため
先月一日から新人審査
委員も加えて新しい審査委員会が発
足している。

昭和初年、健保制度が実施され、
当時の政府は、被保険者一人当りの
年間医療費を定め、これを一括して
日医に支払い、日医がこれを末端の
医師の診療実績(出来高)に応じて
分配する方式がとられていた。この
方式では政府、保険者は絶対に赤字
を出さないで済むことになる。この
時、各都道府県医師会が末端の保険
医の請求をチェックするため査定減
点を自主的に行なったことが、今日、
毎月、基金で行われている審査によ
る査定、減点の起りとなっている。



富山と大阪から二名の審査委員を招いて初の審
査対策研究会。写真左から富山の西出啓二郎先
生と大阪の佐藤一夫先生
(七月六日、金沢都ホテルにて)



審査委員の改選に 望む

策の三本柱の一つとして「審査の強
化」をすすめている。本来、保険医
療機関は、保険者に代って療養の給
付を行う機関であるが、保険者と医
療機関との関係は上下の関係ではな

令主義的な構造となっている。②支
払基金が人事的にも経済的にも保険
者側に従属する機関となっている。
③審査に関する諸手続が、すべて保
険者側に有利に、診療担当者側には

昭和三十六年、国民皆保険制度が制
定され、さらに著しい医学の進歩が
重なる保険医療財政の枠が徐々に
拡大されてきたが、国際的長成時
代に入って、政府は総医療費の抑制

く、契約にもとづく対等、平等の関
係にある。にも拘わらず現在の審査
制度には多くの問題点がある。①審
査、支払いに関する重要事項の決定
を全て行政の命令や通達で委ねる命

不利に定められている。保険者には
大幅な権限が与えられている反面、
診療側には救済措置がない。④療養
担当規則が現代の医療に立ち遅れて
いる。⑤審査について公開すべきも
のまで秘密にするなど、秘密、非公
開主義が徹底している。などがあげ
られる。

私達保険医には当然、医学常識や
学術的基盤は必要であり、非常識な
診療は支持しない態度を明らかにし、
真に国民のための医療を行うことを
確認しあうと共に、これを妨げず、
導いてくれるような方向への審査委
員会の改善を求めたい。

- ### 審査委員の推薦基準
- 大阪府保険医協会
- ① 審査にあたっては患者、
保険医の立場に立ち、医
学的な判断で処理する。
 - ② 医学的疑義ある場合に
は診療担当者(照会)に
一方的な査定(減点)を
しない。
 - ③ 記名捺印審査制度、そ
の他審査委員会の民主化
のため積極的に努力する。
 - ④ 協会の研究会活動に協
力し、会員の診療内容向
上に寄与する。

納得のいかなない減点には 再審査請求が必要

審査対策研究会を開く

協会として初の審査対策研
究会を七月六日、金沢都ホテ
ルで開き、三十二名の会員が
参加した。この日、富山と大
阪より社保審査委員をお招き
し、「審査の現状と今後の方

向」大阪における審査改善
の歩み」についてスライドと
豊富な資料にもとづき解説し
ていただき、石川県の審査委
員も交えて、懇談の機会を持
った。

審査内規を くり返し公表

大阪

講師の佐藤一夫先生(大阪
協会研究部長)は大阪での審
査改善の要因として、①審査

委員の公選制(昭和三十年か
ら府医代議員会で選出)、大
阪協会では推薦基準四原則(

別掲)を設けている。②審査
内規の公開を府医師会、支払
基金、保険課にくり返し求め、
保険医新聞にその都度掲載し
てきた。③審査改善と診療内
容向上研究会は車の両輪であ
り、府下全域できめ細かく研
究会を開き、協会の力量を高
め、医師会を内部から改革し
ていったこと。④諸先輩のす
ぐれた行動力と達見。審査対
策のオニが協会の中に多教育
ってきたことを上げられた。

審査改善運動 に大きな励み

一方、富山や石川では審査
委員の公選制はもとより、審
査内規の公開も不明瞭なところ
がたくさんあり、再審査請求
する人も少ないという現状が
ある。講師の西出啓一郎先生
(厚生連高岡病院第一内科部
長)からは再審査請求の必要
性が強調された。

医心凡語

我が家の「あじさい」もそろそろ盛り
を過ぎて所どころ茶
褐色に枯れ始めてき
た。これは俗に言う
西洋あじさいで日本
古来の「がくあじさい」と比
べると一見華やかで色も濃い
しかし、その落着きと品格の
点では古来のものが遙かに勝
っている。

私はこの「がくあじさい」
が欲しくて患者先から一枝貰
い受け、さし木を試みたが根
づくまでにはいたらなかった。
紫陽花は別名「七変化」とも
言う。花の色が咲き始めの淡
紫碧色から段々に変わり、後に
薄紅色となるためだ。

先日、厚生省は健康保険証
をカード化するを発表した。
なるほど今までの保険証は持
ち運びには不便なことは確か
であり、カード化されれば常
時携帯出来ていい面もあるう
だが、マイナス面もよくよく
検討して見なければならぬ。
まず個人のプライバシーをど
うして守るのか、このカード
一枚で全ての国民が生まれ、そ
して死ぬまでの病氣と治療経
過のすべてがインプリントされ
る。正にカルテのすべてが行
政の手に渡るのと同じである
ことを。又、これはレインボ
ーシステムそのものであり、
医療費抑制効果を狙ったもの
でもないことも。

厚生省はまったく「七変
化」、よくも手を変え品を変
えて医療費抑制を企むものだ。
『紫陽花もしおれて梅雨の納
めかな』
こうありたいと下手な一句
もよみたくなる。

社会保障制度審議会の建議「老人福祉の在り方」(一月二十四日)を受けて、厚生省は「老人に関する新医療・福祉施策(いわゆる中間施設)構想」を明らかにしています。その概要は、

(1) 現在の病院と特別養護老人ホーム(以下、特養と略す)の機能を併せもった新しいタイプの介護施設「健康福祉施設」の全国普及

(2) 従来の特養をこの新施設に吸収、要介護老人の多い一般病院も新施設に指定(老人病院も病床の一部を指定されるよう老人保健法改正や診療報酬改定により誘導する)

(3) 医療と介護費用は民間保険を含めた医療保険でまかない、生活費は利用者負担とする。

これによって全国一、五〇〇ヶ所の特養への国庫負担(措置費)三千億円を打ち切り、併せて年間四兆円になろうとする老人医療費を大幅に削減しようとするもので、臨調行革路線に沿ったものであります。

来年度概算 要求が焦点

このため厚生省は本年四月に「中間施設に関する懇談会」を発足させており、又、老人保健法の見直しのため老人保健審議会の中でも中間施設につき論議しています。そして八月までには両会からの中間報告を導き、六十一年度の厚生省概算要求に盛り込み、年末の通常国会に老人保健法改正案として提出することを企図しています。

すでに老人保健法による老人病院が「中間施設」を想定してスタートしている。

六月十五、十六日に開かれた老人福祉問題全国研究集会(主催：全国老人福祉問題研究会、中川晶輝会長)ではこの中間施設問題について活発な討議が行われ、次のような指図がありました。

①中小病院を中間施設として運用することは、これらの病

院が救急医療をはじめ第一線で老人医療の主要な役割を担っている点からみても、また病院の施設や設備の制約からみても非常に無理がある。

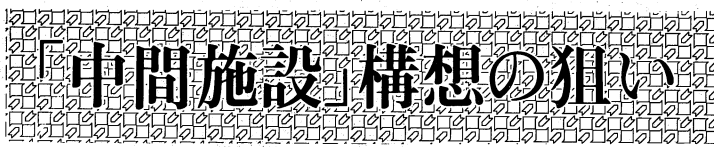
②「建議」が指図した老人病院と特養が「心身状態にほとんど差異のない老人」を扱っているのは入所待機者の増大にもかかわらず、特養の増設が少ないためであり、その結果、老人病院が特養の代替施設化してきた。行政はこの責任をあいまいにしたまま老人病院を収容施設にしようとしている。

求められる 老人病院の 自主的改革

③現在の特養の医療応需体制(救急時や夜間の病床確保など)を充実すれば中間施設はいらぬはず。

④特養の長所は措置費制度であり、介護費用は社会保険で、生活費は自己負担でまかなえという中間施設構想は行政の公的責任放棄である。将来に渡って措置費制度の存続・強化を要求していきたい。

⑤一方、老人病院も地域の中で果たす役割をもっと明確にして、デイ・ケアやショート・ステイ、訪問看護など在宅医療の整備に協力できる体制を内部から築いていくことがいま求められている。(この病院では、ここまで出来ずと打って出ること)



老問研全国集会から

⑥中間施設は既存の施設の他に新たな収容の場をつくるのではなく、在宅ケアを中心とした生活の場を出るだけだったくさん、身近なところに(なるべく小学校区に一方所)設置することが望ましい。

⑦来年には具体化されようとしている行政主導の中間施設に対抗して、住民主導で現在の特養の増設・拡充をいっそう強力に求めている。

最後に「あの病院」や「あの特養」がある「あの街に住もう」という街づくりの運動を各地で上げていきましょうと発言された大阪の保健婦さんの意気込みが特に印象に残りました。

(事務局 神田)

地域での連携めざして ③

大切な保健と医療の連携

泉野保健所保健婦

山本万里子

健康診査は地域住民の健康状態をチェックし、異常や疾病の早期発見、早期治療、更に、より高い健康を確保することを目的として行っています。保健所では、母子保健法に基づいて個人通知方式によって、三カ月児、一歳六カ月児、三歳児の健康診査を行って、一次健康診査でスクリーニングされています。

健康診査は地域住民の健康状態をチェックし、異常や疾病の早期発見、早期治療、更に、より高い健康を確保することを目的として行っています。保健所では、母子保健法に基づいて個人通知方式によって、三カ月児、一歳六カ月児、三歳児の健康診査を行って、一次健康診査でスクリーニングされています。

して行いたいと思います。健康教育は保健予防活動すべての基本で、検診によって異常を早期発見しても、その結果を自らの健康を守るために生かさなければ意味のないものになります。

健康を守るための知識の普及と実践への動機づけとして健康教育は重要なもので、保健所では健康診査等の機会や、高血圧、心疾患予防教室などにおいて実施しています。

人間の健康は連続したものであり、その時々々の健康レベルに於いて、保健所・地域医療機関・保健所と関わりは変

理事会だより

(7月2日)

(協議事項)

た自治体には、地元会員の協力を得ながら九月議会で改めて請願又は陳情することとしている。

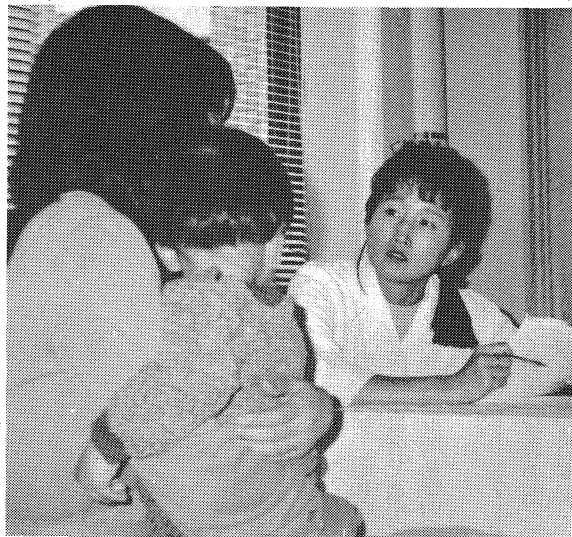
(1) 国会請願署名の到達点と対策

協力医療機関 五十一ヶ所、老人クラブ等の署名協力団体が五十三ヶ所であり、合計五、四五二名の署名が協会に寄せられた。

このうち第一〇二国会には鳴崎 讓衆院議院を介して、七〇〇名分は国会に提出済みであり、残りは次期通常国会に提出する予定。

(3) 保団連の医療政策パンフレット「安心できる医療」の活用について

会員自身が学べる内容であり、又待合室に置いて患者さんへの宣伝用にもなるわかりやすい内容となっている。七〇〇部購入し、運動推進に役立てていく。



泉野保健所の相談窓口にて

老人医療の定率負担

私の意見

老人の死亡が増加し、平均寿命は短縮し、積年の努力は水泡となる。

には絶対反対。

(金沢市 外科)

(金沢市 内科)

我が国の第一線医療は世界に誇る水準にあります。現在それを後向きに引下げよう

。国家統制的な受診抑制や老人保健法の改悪に断固反対する。

(金沢市 内科)

(小松市 整形外科)

(4) マスコミ対策

医療法「改正」による医療供給体制の再編、老人の定率負担や健保本人の八割給付の世論づくりのため、この数ヶ月間、意図的に医師不信をおおる報道が行われている。今後このような記事が掲載された場合、協会として機敏に対処していくゆえ、会員のみならずからも積極的な意見を寄せていただくよう呼びかける。

給食は外注にすべし

金沢市 浅野 繁 尚

給食の外注を実施できるべく法改正すべきである。一編の通達で五十年も無料であった健保本人を一一二割負担に出来るのであるから、このことは朝めし前である。

現在、われわれの経営状態をよくするため人件費を節約するのが最良。給食は食事箋で専門の商業ベースにのせるとボーナスは浮くし、月給は浮くので一石二鳥。

これは山代温泉、国会の近くの赤坂村、京都祇園の懐石料理、皆電話一本で時間と最近の品質を約束してお客に提出している。病医院も、あんなまますい鳥の餌のようなものを出して儲けていると云われ

るより、祇園と同じ方式で少しも儲けないで食事を出して食事箋通りでなかったら文句をつける立場に立たせよ。

以上の要旨は大浜方栄氏にも送ってあるので近く何らかの反応があると待っています。

夜の往診

金沢市 北川 弘



一昨年十月の土曜日、翌日の釣りの準備をしていました。ワゴン車の後に釣り道具を積み込み、一服していたところ、夜中の一時頃、苦しいから往診してほしいとの電話があり、全く知らない家だが、住宅地図を持ち、行くことにしました。目的地近くでルームランプをつけた家の玄関へ入ったが表札が見えない。そこでポケット

トのライターをパッとつけた瞬間、後から「あんた、何してる。」振り向くと二人の警官、往診に来たと言っても半信半疑の様子。その時の私の格好ときたら、紺の釣りズボン、黒の皮ジャンパー、おまけに毛がかたいものでチリチリパーマ頭でした。家人の証言？でようやく事なきを得ました。以後、白衣を着て行くことにしています。

先日、出入りの医療器具屋に何か良い方法がないかと尋ねたが、専用の洗浄器具となると何と二十万円ぐらいするという。「零細な当院ではとても手が出せぬ」と言ったら、オモチャみたいな物を持って来た。これは何かと聞くと、眼鏡・入れ歯・指輪などの超音波洗浄器で、これなら一万余円ぐらいいいと言った。「役

赤ずむ注射器

開業して数年、当院でも資材や建物の汚れ、サビがはじめていた。その中でも注射器の変色が目立って来た。どなたも経験されていると思うが、使用後、毎日洗浄していても次第に赤ずんで、注射する方も、される方も不潔感がのつて来る。

立たなければ我輩の眼鏡（入歯ではない）でも洗うわい」と思っ、シリッジを入れて、



ブラシをかけて見ると幾分綺麗になったようである。大量処理はできないが、毎日少しずつやって見て、どの洗剤が良いか、検討中である。

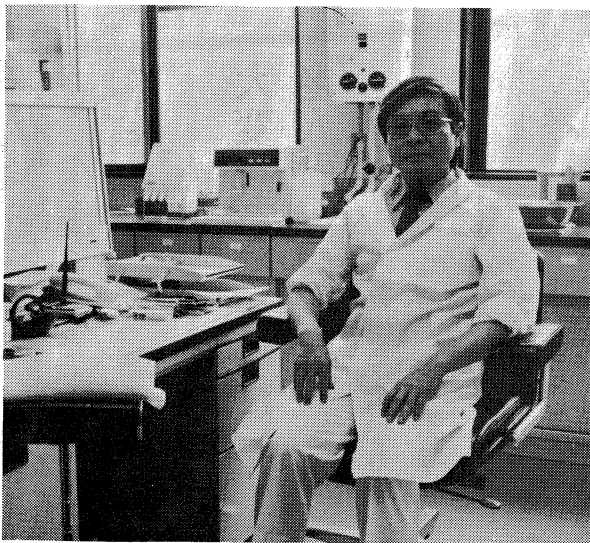
どなたか、もっと安上がりで、確実な方法をご存知の方があれば、ご教示願いたい。（内科医）

遠くなった金沢

吉田明彦先生の巻

先生は昭和五十八年二月、生れ故郷の山中町で、内科医院を開業された。動機について、「亡き父が移転のつもりで用地を確保してあったこと、当地は県の南端に位置し、開業医が少ないこと」を挙げ、数カ月間迷った末に踏み切ったとのことである。

現況について、「古い温泉街で、御多分にもれず中心街の過疎化がすすみ、老人の割合が多くなっている」、「フリーの旅行客が夜間、急患として来院するので、診断・治療の時間的余裕がなく、一発勝負で決めねばならず、苦勞することも多い」、「現在十五名のスタッフを抱えており、その確保・管理に若干の苦勞は



開業3年目の吉田先生

医療情勢については、「当分の時代の続くと思うし、目まぐるしく変わって煩雑化し、対応し切れなくなるのでは」と将来に対する不安もチョッピリのぞかれる。

趣味はと聞くと、「とくにこれと言った趣味はないが、ドライブが好きで、遠出は出来ないが、夜間は母に任せてぶっ飛ばしてストレス解消を図ることもある。」

最後に保険医新聞について、「読み易いし、学術・医事情報が豊富で大いに役立っている。今後とも一層頑張りたい」と聞き、意を強くした。

聞き手 西村 功 機関紙部員



従来、他の協会では当協会の「学術部」と「保険部」の役割を「研究部」が一括して執行している。その活動内容からみても「保険医療」を無視した「学術」は存在意味がないとの合意に達し、今年度からは「学術部」と「保険部」を統合して「学術保険部」の名のもとに新たな歩を進めることになりました。

研究会と審査対策が二つの柱

学術・保険部

今年度の活動は二本の柱から成っています。一つは「研究会活動」です。その詳細は、①従来の純粋に学問的な講演会は現在の会員の要求を満すものではなく、

し、この主旨に沿った研究会活動を行って行く予定です。②従来員講習会は今年度は「応急処置の実技」をテーマとして県下六ヶ所場で開催すると共に、来年度以降、この主旨に沿った研究会活動を行って行く予定です。③「レセプトかんふあんす」を協会新聞に随時掲載する。④診療報酬改訂時には速やかに情報を伝達し、新点数説明会、検討会を開催する。などを具体的に活動内容として企画しています。

降の内容について会員からの希望を集めて行く予定です。⑤歯科・医科隣接医学懇談会に関しては、現状から判断して、今年度は主に歯科会員を対象として外来

役立つよう企画しています。二つ目の柱は「審査改善対策」ですが、具体的には①審査対策研究会および保険対策懇談会を実施する。②不当な査定・減点に対し

(能登康夫 記)

第43回、鈴見台会館

地域医療へのアプローチに最良

六月二十一日、第四十三回

「健康なんでも相談」が鈴見台友愛会及び同婦人部の主催で開催されました。新築の句いがたがた会場には、夕食を済ませた三十名余りの参加者...



3回目の開催となった鈴見台友愛会の健康なんでも相談 (6月21日、鈴見台会館)

尚、後日、「健康なんでも相談」初参加の内田 実先生から、「地域医療の医師側からのアプローチを進めるための一番良い方法であると感じました」というコメントをいただきました。又、鈴見台婦人部から次の感想文が寄せら

れました。

◇ 当町会でも以前から数回行われていたが、私も初めて参加いたしました。

始めに、内田先生から、子宮癌の症状や進行のようすをスライドを見ながらお聞きしました。その話の中で、早期発見の重要性を痛感いたしました。定期検診で癌の患者が見つかることも多いとのことでした。

次に大矢先生からは、歯の治療も早いうちにしなければいけない。自分の歯を一本でも助けて、さし歯なり、入れ歯なりをした方がよいとのことでした。

◇ 続いて井沢先生の司会で、出席者の質疑応答に入りまし

た。日頃、病院に行くほどでもないが、体の調子が悪く、悩んでいる人たちに適切なアドバイスを頂きました。

私達も、もっと病気に對する知識を身につけ、自ら健康管理に気をつけ、健康な生活を送りたいと思っております。次回も計画されているようですが、ぜひ参加し、お話を聞きたいと思っております。

最後に、御指導頂きました各科の先生、保険医協会の方々に厚くお礼申し上げます。(金沢市鈴見台第二町会 婦人部長 宇根本康子)

第45回

弓取町会館

場所：弓取町会館二階で、日時：六月二十八日夜七時三十分から約一時間半でした。

当日の出席者三十名余り。先生は内科の井沢先生、皮膚科は金原先生でした。まず、金原先生が皮膚病をスライドで説明され、次いで皮膚病全般と特に老人皮膚病について種々、判り易くお話し下さいました。

老花現象として皮膚に現われるシミ、斑点、イボや湿疹

などは大して心配いらぬが、内科と関連性あるものは悪性だから医者にかかるようにと教えられました。水虫は家族(特に子供)に

大変参考になった 老人と皮膚病

浅野川校下南部寿会 会長 中野正男

うつるから注意するよう云われ、自分は医者の手当てを受け治ったところなので安心致しました。

内科の井沢先生は、血圧測

定はそれぞれ多少の違いがあるものだということを承知しておく必要を云われました。又、老人会が町会で特定の人を定め、その人にいつも測定

たと思っています。金原先生が一番最初に書かれた老人を表現した昔の人の歌は誰でも解る面白い歌でした。夜間のことで、遠い町会の老人達が欠席されたのが残念なことでした。

◇ 高齢化社会はますます進展する昨今、老人の一人ひとりが自分の健康管理について充分な知識を持ち、自覚を深め、保健に努めることが大切なことだと思います。又、次の機会を得たいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

この度は本当に有難うございました。

健康なんでも相談

地域住民とともに

膝を交えた懇談会

多彩な団体から申し出

第44回、大崎公民館

日頃悩んでいたことが次々に質問され

六月二十二日、第四十四回

「健康なんでも相談」が大崎公民館で開催されました。大崎婦人学級の主催で、テーマは「婦人の健康管理」について。用意した四〇部のレジュメが足りなくなり、地元でコピーをお願いするという盛況ぶりでした。

尚、婦人学級から事務局にお礼文が届きましたのでご紹介

◇ 介しておきます。

先日はお忙しい中、私共のためにおいで下さいまして有難うございました。

婦人病についてと題しますと、やはり皆それぞれに深刻な悩みがあるようで予期した以上の出席率で私共も喜んでおります。それに上島先生のお話の仕方が私共にはわかり易

いように、くだけてお話し下さいまして、又、所々のひょうきんなお言葉に笑いも混り、日頃悩んでいたことの質問がたくさん出、質問出来ずにいる人の中でも同じ悩みを持つ人もいるようで熱心に聞き入っていました。

先生のお話の中にもありましたが、婦人科というのはなかなか足の向かないところがありまして非常に勇気のいるものと思ひ込んでおりました

が、この先生にならご相談出来そうだと皆も口々に言いながら帰って行きました。又、機会がございましたらお会いしたいものと思っております。

(河北郡宇ノ気町大崎・大崎婦人会役員一同)

第46回、金沢市農協押野支所

スライドとビデオを併用して

七月七日、金沢市農協押野支所において、第四十六回「健康なんでも相談」が開催されました。年金友の会と新保本同人会の共催で三十名の参加者がありました。



ビデオも使って、第46回健康なんでも相談を開催 (7月7日、農協押野支所)

長の前宮氏が、「健康は幸福な老後を送るうえで最も大切なことです。日頃、病気に悩んでおられることなど何でも相談して下さい」と挨拶され、高島先生(外科)の講義が行われました。テーマは『腰痛・癌の初期症状・ストレスと健康』で、高島先生はスライドと医者向けのものを、やさしく編集しなおしたビデオを使って、一時間半にわたって話されました。終了後、平松先生(内科)の司会で懇談が行われ、「まがった腰は直るか」「癌はウイルスによるものか」「指がうまく曲らなくなったが...」という質問が活発に行われました。今日のように熱心に話を聞いてくれる先生に診てもらいたいという意見も寄せられていました。

従業員講習会

応急処置の実技講習

今年も引続き好評



輪島会場は地元医師会と共催で。中央で挨拶されるのは新田晴雄先生 (6月26日、輪島市農協会館)

六月二十日金沢会場を皮切りに、今年も従業員講習会が開催されています。講師に日本赤十字社救急法指導員の大橋俊信氏をお招きし、応急処置の実技をテーマとして、人工呼吸・心臓マッサージ・止血を中心とした実技講習です。金沢会場では定員を大きく上まわる七十三名の参加者が、大橋先生の巧みな話術に引き込まれるように聞き入っていました。また、人工呼吸につ

あつ、そうか、なるほど

日頃いつも心にとめておかなければと思いが、この方面の知識に乏しい私は、大橋講師の言葉を最大もろさず聞くかと思ひ、一生懸命でした。巧みな、そしてユーモアにあふれた話術と指導は私を引きつけ、あ、そうか、なるほど

いては、旧約聖書の中にも記述があり、数千年前にすでに人類が行っていたという興味深い話や、最近、実際に応急処置によって助かった例などの話に、熱心にメモを取る参加者の姿が目立ちました。二十六、二十七日には、それぞれ輪島、七尾会場で開催され、いずれも三十人余りの参加者があり、全員がレサシアンネ(人工呼吸・心臓マッサージ)の訓練用(人形)を使っ

て、その練習に励まれました。尚、七月の中にも下記の要領で開催されますので、参加ご希望の方がいましたら協会事務局まで早めに申し込んで下さい。(〇七六二二二一五三三三) すでに行われた三会場より参加者の感想文が当協会に届いておりますのでご紹介いたします。

吉田 幸子

どそうだったと、日常何げなくやっていることを反省させられ、これからはこんなふうにしていかなければ、あのようにならなければ、人工呼吸、心臓マッサージ、止血と、時間のたつのも忘れ、い

大切な一分一秒

医療従事者のための講習会は今回で三回目の参加です。私達は日頃、病院に勤めているながらも人工呼吸、心臓マッサージ等を要する患者さんに直面することはあまりありません。一応、学校で勉強をしてきましたが、今回の大橋先生のように詳しく指導されませんでした。実際に人形を使い、マウスツウマウス、息を吹き込んで肺になかなか入らず、訓練

にも拘らず戸惑ったり、マッサージの手の位置で骨折になること、気道の確保、力の入れ具合など想像以上でした。その場で理解したつもりでも実際遭遇した場合、どのような判断で処置出来るか疑問ですが……。でも、この講習会に参加できたおかげで、先生より教わった一つ一つを頭におき、機敏な行動で一分一秒でも早く処置することの大切さを痛感



実技時間を十分にとった七尾会場 (6月27日、七尾看護専門学校)

セーフティランプにドキドキ

中村 春枝

医療従事者として毎日、多忙な日々を過ごしており、つい自己学習も怠りがちな今日この頃ですが、今回、大橋俊信先生の御指導のもとで人工呼吸・心臓マッサージ・止血法を学びました。レサシアンネ(人形)を実際に見たて、実習しました。青・黄のセーフティ・ランプに、こちらの心臓の方がドキドキ。マウス・トウ・マウスの人工呼吸法は、感染の危険性があり、少し抵抗もありましたが、緊急を要する場合はこんなことも言っておれない

かと。又、心臓マッサージ法は、肋骨骨折の問題、止血法では、止血点の選択など、考慮すべきことが多々あることを改めて痛感しました。また、私たちの町では毎年、公民館行事として、夏山登山が行われ、当院も、これに救護班として参加していますので、今回のような救急法のトレーニングは大変有意義でした。今後は、職場内でも勉強会を持ち、救急法の修得に努めたいと思います。(志雄町 国保志雄病院)

と実技で教えて頂き、大変勉強になりました。二時間という短時間の講習でしたが、わかりやすい説明 (六水町 白藤医院職員)

協会の行事案内

医療従事者のための実技講習会

テーマ 応急処置の実技

(人工呼吸、心臓マッサージ) 止血

講師 日本赤十字社救急法指導員

大橋 俊信氏

参加費 五〇〇円

日 時	会 場
七月十八日(木)	小松市医師会館
七月二十五日(木)	加賀市民会館
七月二十六日(金)	松任市民文化会館

※時間帯はいずれも午後七時から九時までです。実技のできる服装にてお集まりください。

講演会

これからの開業医シリーズ (第一回)

テーマ 実地医家にすぐ役立つ慢性疾患の管理

— 糖尿病を例として —

講師 神奈川協会地域医療対策部長

平尾 紘一 先生

とき 七月二十八日(日) 午後一時
ところ ホリデイ・イン金沢二階

妻の本音

世のため、私のために

金沢市 大石 礼子



産婦人科を
開業して十五年

開業して十六年になりました。二十四時間、三百六十五日、休みなく、自分の生命をかけて、患者の生命を危険から守ってきました。ふっと気が付いたら、もう中年でした。産科は突発事故の可能性が多く、統計によれば分娩の1%に対し千CCの出血があるとか。又、五千例に一例は五千CC以上の出血があると聞

いています。私共もこれまでに二回の大出血に遭遇し、夜中にもかかわらず大勢の先生の助けをかりました。お蔭さまでいづれも救命し、患者や家族の方からは大変よろこばれたのですが、その時の精神的、肉体的疲労は例えようもありません。十年いっぺんに年をとったような感じがします。そして回復するのに約一ヶ月はかかるのです。こんなことが昼夜を問わず不測的に発生するので、産科医とその家族はたまったものではありません。こんな時、開業

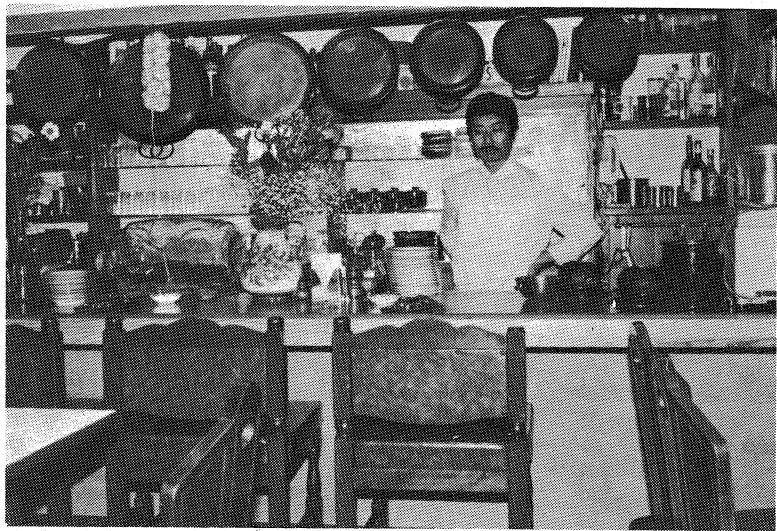
はもうやめようと思うのです。しかし最近分娩の数が減ってきたので時間的に余裕が出来(経済的には苦しいのですが)人間らしい人並みの生活が出来ようになり、ホッとしています。又、産科の仕事も、より慎重になり最近の五、六年は全く危険に遭遇していません。

従業員の
処遇は

若い世代との人間関係がだんだんむずかしくなってきました。

本音で生きて
いる夫

夫の理想主義に対し、私の現実主義というのが我が家に貼られたレッテルです。夫ばかり良い子になって、私に後仕末が廻ってくるのが我慢出来ません。私だって理想主義になりたいのです。その方が楽ですから。しかし貧乏症な



スペイン料理で人気の高いかサ・デ・リブ・カナザワの店内(立っている人がマスター)

あの店 この店

カサ・デ・リブ
カナザワ

若い人に人気のあるこの店は、金沢に数少ないスペイン料理を気軽に食べさせてくれる店です。フランス料理と違って気取ったところのないの

食べ歩き
のご案内

日時 八月二十一日(水) 午後七時
場所 金沢市カサ・デ・リブ・カナザワ
会費 八、〇〇〇円
◆お申し込みは協会事務局迄

寄稿

カゴに乗る人
かつぐ人

のでそうはいかないようです。彼の長所は本音で生きていくところ。隠し事はせず、根あかに生きています。他人に親切でやさしく、その人のためにと欠点なども指摘し、心から心配してやっているのですが、その人には通じず、逆に大変、迷惑がられているのが現状のようです。年と共に、その傾向が強くなっているのではないのでしょうか。こんなお人好しで、かわいそうなお父ですが、世のため、私のために長生きして頑張ってくださいと思っています。(筆者の御主人は大石博司先生です。)

人間みな平等というが、平等であるべきとの理想として掲げるだけで、実際にはあまり気易く使うべきではないと思う。昔の言葉に、「カゴにのる人、担ぐ人、そのまたワラジを作る人」とある。いい得て妙な、分際を原理解の世にも適用する。周囲の人々を、みな自分と同じと考えた上で接すべきである。そして「説得」と「理解」の度合いが等しいとき、初めて真の人間関係が出来上がるのでは……。欲するまま思いつくままを声帯にゆだね

石川県保険医協会
第2回ゴルフコンペのご案内
日時 9月23日(月・祭) 午前8時スタート
場所 金沢ゴルフクラブ (金沢市蓮如町丁二番地)
募集人員 36名(先着順)
参加費 三、〇〇〇円
申込先 保険医協会 (☎〇七六二二二二五三七三番)
昨年九月、協会創立十周年を記念してゴルフコンペを行い好評を得ましたので、毎年の恒例行事として開くことになりました。会員諸先生のご参加をおすすめします。(企画担当 柳下邦男)

研修と盆休のため
事務局休務のお知らせ

八月二日(金)、三日(土)は北信 事務局は休務となります。越ブロック事務局の研修会のため、ご了承ください。ご用の折ため、また八月十四日(水)は、この前後にお願いいたします。六日(金)は旧盆のため、それぞれです。

グループ保険新加入の
みなさんへ

グループ保険第五次募集では新規十六名、増額三十名、保険金合計で八億三千万円の加入申込みがありました。従来の加入者との累計では会員二五〇名、配偶者一三〇名となり、保険金総額は七億七千五百万円となり、会員加入率は五二・九%に達しています。募集期間中は何かと迷惑をおかけしましたことを紙上にてお詫び致します。なお、今回加入者の初回掛金引去りは七月二十五日であり、保険の効力発生は八月一日です。